

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	透視下腹腔神経叢ブロック後のオピオイド減量によるオピオイド退薬症状出現割合の検討
	研究目的	透視下腹腔神経叢ブロックは上腹部内臓がんの難治性がん疼痛に有効なブロック療法です。ブロックによるがん疼痛の改善でこれまで使用していた医療用麻薬の減量が期待される一方、その減量ペースが早いと退薬症状が出現する可能性があります。しかし腹腔神経叢ブロック施行後、どのようなペースで医療用麻薬を減量していけば退薬症状の出現を防ぐことができるかは未解明な点が多いのが現状です。本研究はこれまで透視下腹腔神経叢ブロックを受けた患者さんの経過を電子カルテ上のデータを元に調査し、ブロック後の医療用麻薬の安全な減量ペースについての知見を得るのを目的としています。
	研究対象者	記載例：2005年4月から2020年10月に当センター緩和ケア内科にて腹腔神経叢ブロックの治療を受けた患者さん。
	研究期間	西暦 2021年 7月 12日 ~ 西暦 2021年 12月 31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理について の責任者	当センター 研究責任者	緩和ケア内科 太田 周平
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	緩和ケア内科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	横浜市立大学附属市民総合医療センター 研究責任者：柳泉 亮太 横浜市立大学附属病院 研究責任者：長嶺 祐介 横浜市立市民病院 研究責任者：倉持 智子